



中学社会と高校公民の接続

— 経済活動を事例として —

峯 岸 誠

2024. 8. 23

自己紹介

峯 岸 誠

- 1946年12月11日生まれ

※私が生まれた頃

1946年11月3日 日本国憲法公布

1947年3月31日 教育基本法成立

4月1日 新教育制度発足 (**中学校発足**)

5月3日 日本国憲法施行

6月 学習指導要領社会編公表

這い廻る社会科



経 歴

1971年 東京都公立学校教員となる。

- 荒川区、新宿区、豊島区の中学校の勤務を経て、2005年3月大田区立東調布中学校長を辞職。

2005年 玉川大学講師、教授をへて客員教授（2015年退職）

東京都中学校社会科教育研究会長、

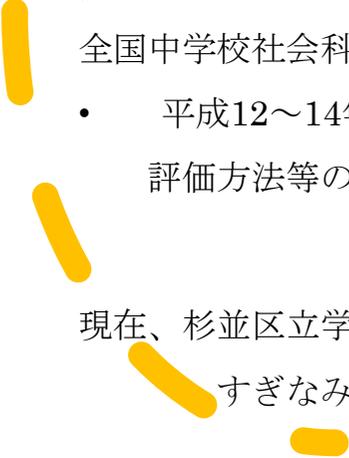
関東ブロック中学校社会科教育研究会長、

全国中学校社会科教育研究会長・相談役を歴任。

- 平成12～14年度、国立教育政策研究所教育課程センターの「評価規準、評価方法等の研究開発」に関する検討委員会中学校社会科部会の主査

現在、杉並区立学校運営協議会長（2校）、**社会科学習会主宰**、2つの旬会

すぎなみ文化協会理事、中央大学商議員など



中学社会の学習対象

社会科の学習対象とするものは、人間の行動を含めた社会的事象であり、その中心は現代の社会である。その社会的事象は、空間的な広がりの中で、また時間的系列の中で、具体的なものとして現れ、変容していく。こうした事象を中学生に幅広い視野からとらえさせるために学習すべき内容を社会科として選択し、これを学習の観点から大きく分類していくと3分野でそれぞれの内容となる。社会的事象の地表面にあらわれた現象を主として地理的分野で、社会的事象の形成過程を主として歴史的分野で、社会に生きる人間を初め、社会的事象を成り立たせている組織、機構とその機能を主として公民的分野で扱い、それらの総合的な成果として社会科の目標を達成」する。

- 中学校学習指導要領解説社会編（平成16年5月一部補訂 文部科学省 P7）

中学社会の目標

2017（平29）年
改正

- 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 我が国の国土と歴史，現代の政治，
経済，国際関係等に関して理解するとともに，
調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ
まとめる技能を身に付けるようにする

(2) 社会的事象の意味や意義，特色や相互の
関連を **多面的・多角的に考察**したり，社会に
見られる課題の解決に向けて選択・判断した
りする力， **思考・判断**したことを説明した
り，
それらを基に議論したりする力を養う

(3) 社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，*多面的・多角的な考察*や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

高校公民の目標

2018

(平30)年 改正

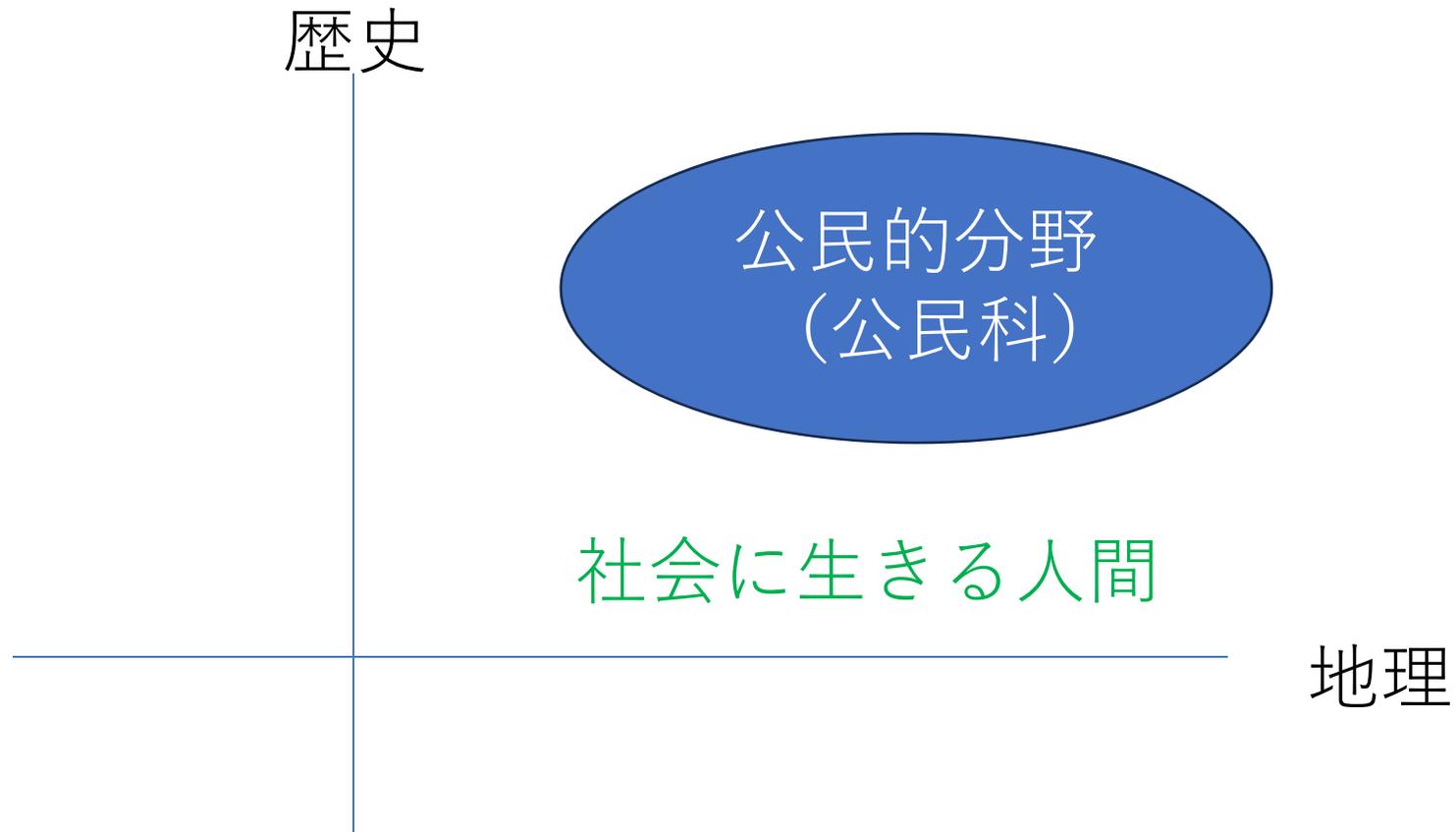
- 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な**公民としての資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

(1) 現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について**理解**するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる**技能**を身に付けるようにする。

(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる**考え方**や公共的な空間における**基本的原理**を活用して、事実を基に**多面的・多角的に考察**し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

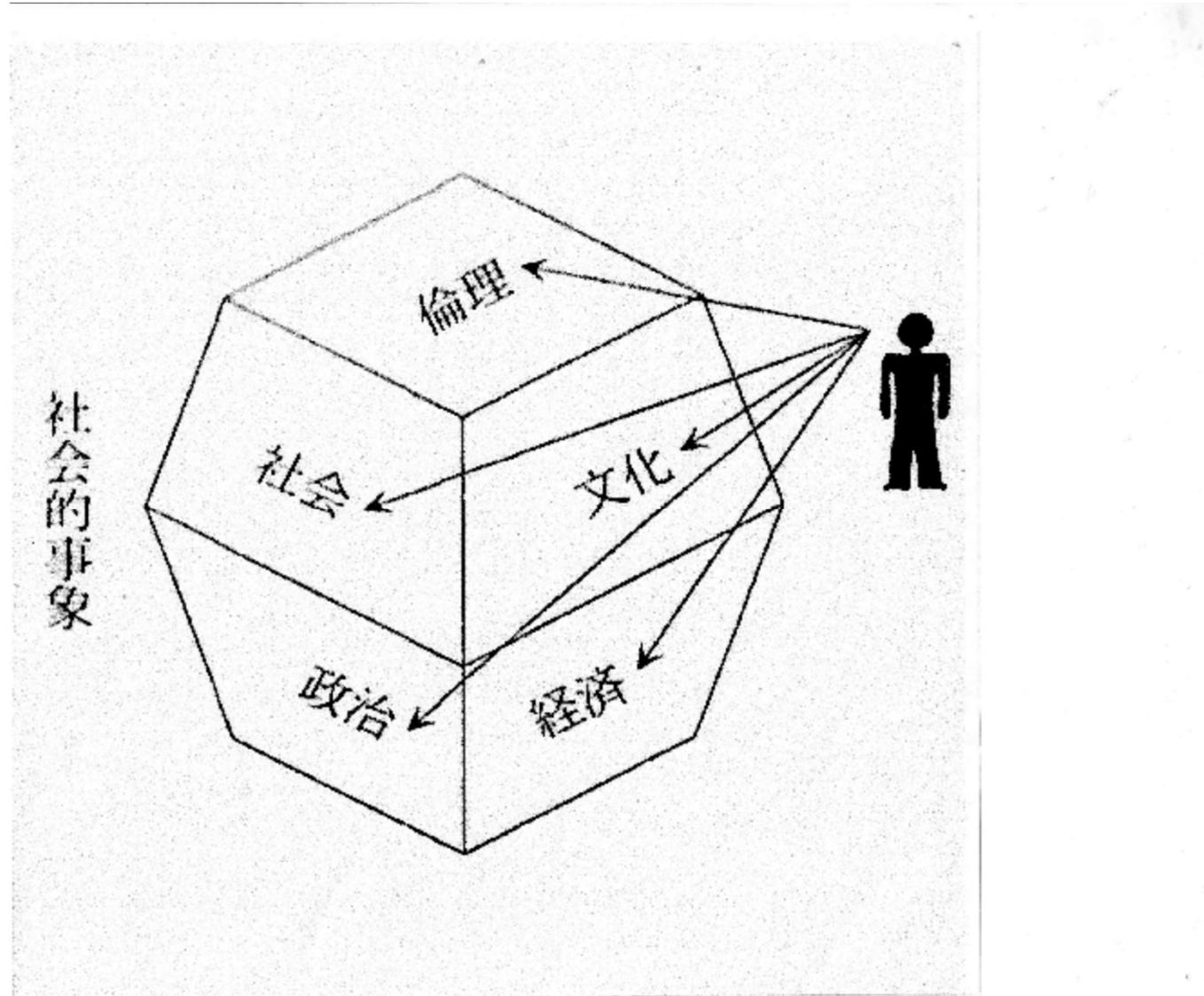
(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、**多面的・多角的な考察や深い理解**を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める

中学社会、高校公民の構造



現代社会の捉え方

1999（平11）年 高等学校学習指導要領解説 公民編 P13



多面的・多角的



多面的
・
多角的

- 多面的 科目 公共の場合
倫理
社会
政治
法
経済：家計 企業 政府
文化
- 多角的 経済を扱う場合
生産、流通、販売、消費
国民、政府、金融、財政
投資、経営（資本）労働

多面的・多角的（経済活動）

多面的・・・経済活動の主体

家計 企業（分業と交換） 政府（財政）

多角的・・・経済活動との関わり

生産 流通 販売 消費

見方・考え方・・・

家計
効率 → 幸福

企業
自由 → 効率

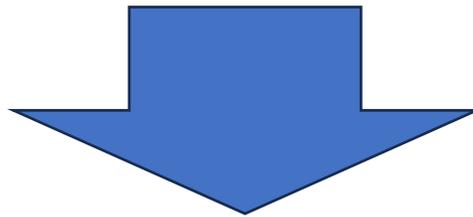
政府
平等 → 効率 → 幸福

現代社会の実相

現代に生きる人
間

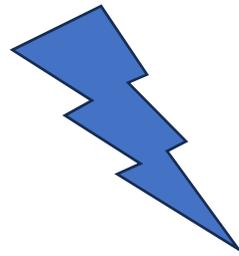
(社会的存在)

生命、自由、幸
福追求の権利



人間の欲望 = 多様 無限
活用できる資源 = 有限 (財、サービス)

※ 資源 = 希少性 = 富



対 立

(欲望との葛藤)



対立の予防、解決 (合意、選択)

多面性

見方・考え方

- | | | | |
|---|---------|---------|---------|
| ① | 倫理的側面 | ・ ・ ・ ・ | 道徳 ・ 宗教 |
| ② | 社会的側面 | ・ ・ ・ ・ | 正義 ・ 幸福 |
| ③ | 政治的側面 | ・ ・ ・ ・ | 平等 ・ 公正 |
| ④ | 法的側面 | ・ ・ ・ ・ | 平等 |
| ⑤ | 経済的側面 | ・ ・ ・ ・ | 自由 ・ 効率 |
| ⑥ | 文化的側面 | ・ ・ ・ ・ | 思想 ・ 表現 |
| ⑦ | 国際社会的側面 | ・ ・ ・ | 平和 |



法律、きまり、取り決め、契約





めざす社会

持続可能な
開発

持続可能な
社会



事例 中学校



1. 中学校社会科(地理・歴史)と 金融・金銭教育の関連付けの意義

- メリット1: 金融・金銭教育の側面から学習スパイラルが作られ、深い理解や考察が達成される

⇒「経済・金融の仕組みや機能を理解すること」

(経済教育的な視点)

「経済学的な考え方を基本に合理的な意思決定や社会問題を考える視点を養うこと」(経済学教育的な視点)

- メリット2: 金融や経済に関する基礎的な知識が、社会的事象の深い理解をもたらす(特に歴史、時代の特色)

⇒中世以降の政治や社会について、経済や金融の視点なしに納得のある理解は達成し得ない。

2. 中学校社会科(地理・歴史)と 金融・金銭教育の関連が深い事例

■ 地理的分野で金融・金銭の関連が深い単元の例

ヨーロッパ州…通貨統合(ユーロ導入)と社会の変化

アジア州…地域の発展と外国資本の投資、貧困地域の発展とグラミン銀行 など

■ 歴史的分野と金融・金銭の関連が深い単元の例

中世の日本…宋銭・明銭の輸入と貨幣経済の発展、土倉・酒屋などの金融機関の登場

近世の日本…信長～家康の天下統一事業と経済力強化政策

両替商の登場(両替、相場概念)、貨幣改鑄

享保の改革と江戸時代の米中心の経済の課題(供給量と価格の関係) など

3. 中学校社会科 歴史的分野における

- 実践者：渡邊 智紀（お茶の水女子大学附属中学校 教諭）
 - 実践のねらい：「中世の日本」「近世の日本」の授業を金融・金銭教育の視点から俯瞰し、関連する指導場面を学習指導に取り入れていくことで、歴史的事象の深い理解を図るとともに、金融・金銭についての理解を深める。
 - 実践によって得られた成果：
 - ・ 歴史的事象（社会の発展や変化）の要因を「お金」「もの」の視点も含めて多面的に考察できるようになった。
 - ・ 現代の金融・経済の仕組みの理解につながったのではないか？
- ※次年度の公民的分野の実践で確認したい

中学校社会科と金融・金銭教育

実践例紹介① 中学校歴史的分野 中世の日本

＜絵巻物を読み取ろう～鎌倉時代の社会の発展と文化＞ ※文化(財)から社会背景を考える学習

■ 『一遍上人絵伝「備前国福岡の市」』からどのような様子が読み取れますか？

■ 定期市→多くの物資が交換される場の誕生
＝物資の生産量の増加、多様化、工夫
(室町・江戸期の産業発達のレディネスとして)

■ 川を利用した水運の発達
(室町時代の「馬借・問」のレディネスとして)

■ 銭で布を買う人
・貨幣で交換することのメリットは何か？
・なぜ鎌倉時代には貨幣の流通が見られるのか？
⇒平清盛の日宋貿易(事象の因果関係)



※一遍による説得と出家のエピソード＝鎌倉新仏教へ

事例 高校公民



【政治・経済】

投資について考えよう

東京都立府中東高等学校 3年4組
塙 枝里子教諭（2016年実施）

前提

知識は最大の武器になる



知らない

知る

考える

行動をする



【ワーク1】

突然ですが、今、10万円をもらったら…
どのように使いますか？

内訳を書いて下さい。

※代表者に前に書きにきてもらいます

※SPEND ,SAVE , INVEST ,DONATEの意味を
忘れてしまった人はメモしておこう！

◆ 宝くじと株式の違い

- 宝くじ…ギャンブル

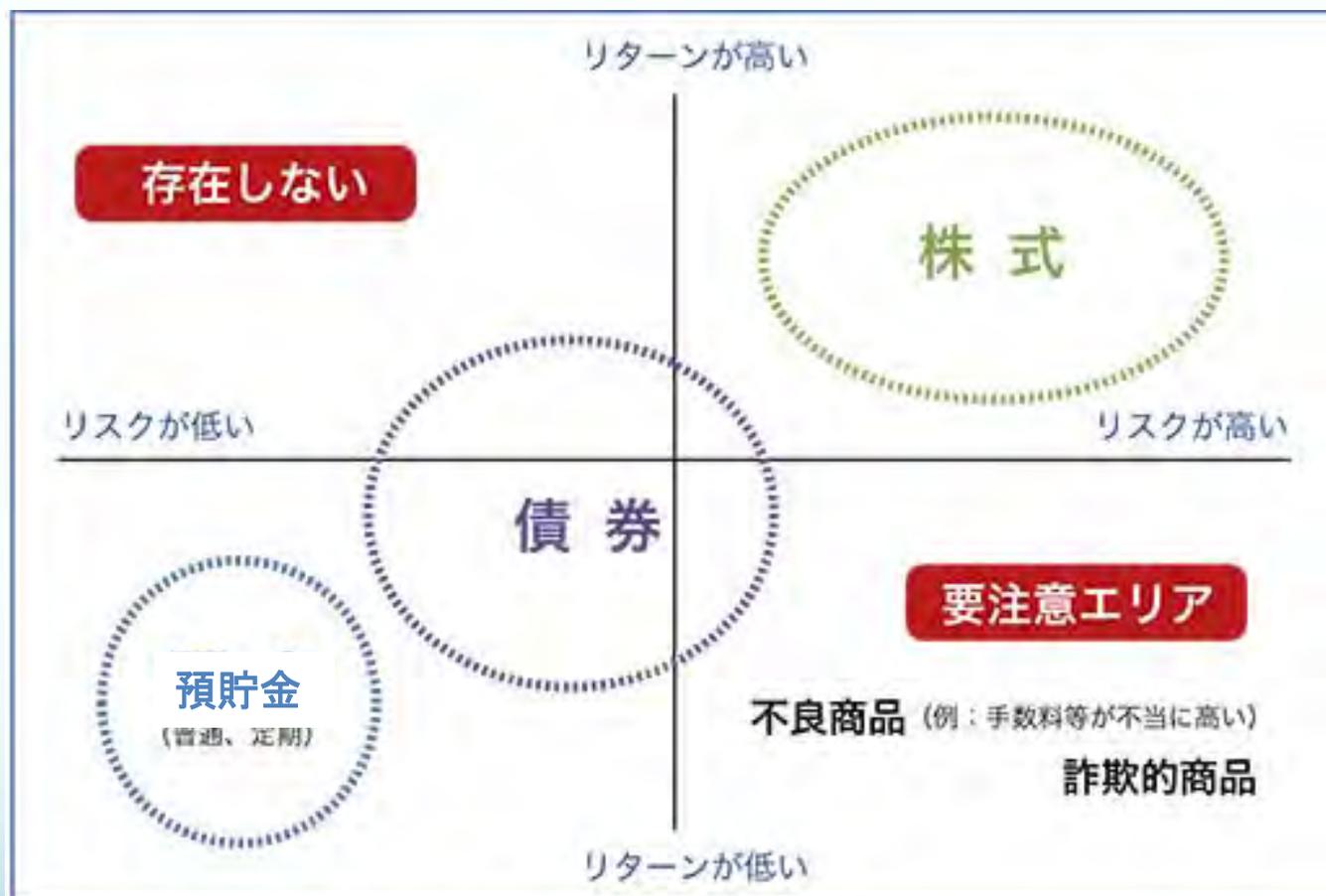
予測ができない、参加者にとって、

トータルは必ずマイナスになる

- 株式…投資

予測ができる、参加者にとって、トータルでプラスとなり得る、リスクとリターンの法則が当てはまる

◆ 金融商品におけるリスクとリターンの関係を考えよう



出典『大学生のための人生とお金の知恵』金融広報中央委員会

宝くじ

現在進行中 中学社会

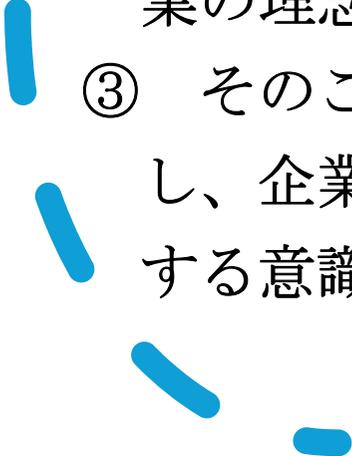
主題

現在の社会的課題を株式投資から考える
～日経ストックリーグの参加を通して～

現在、資本主義の負の部分でもある格差が大きな問題となっている。他にも地球温暖化や貧困、海洋プラスチック、エネルギーや食糧の不均衡などがある。背景に短期的な企業の成長戦略がされたと考えられる。現在は企業の経済活動を含め、持続可能な成長という考えが各国に広がり、ビジネスモデルが大きく変わろうとしている。

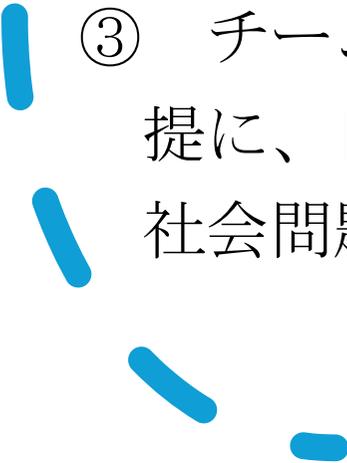


授業の概要

- ① 模擬株式投資を通じて、社会とのつながりを感じ、社会問題の解決について考えさせる。
 - ② 企業の生産活動には資本が必要であり、その資本を効率的に集める方法が株式である。出資者は、その企業の理念や生産活動に賛同、投資することが基本である。
 - ③ そのことを前提にして、企業に投資という形で支援し、企業の活動を通じて、社会問題の解決に自ら参加する意識を芽生えさせたい。
- 



授業の展開

- ① 個人で投資を行う場面と、チームで投資を考えることを並行する。
 - ② 個人の投資では株式投資になれること、身近に感じさせることを中心として、自由な発想から投資を行わせる。
 - ③ チームの投資では日経ストックリーグの参加を前提に、自分たちでテーマを決め、企業訪問を行い、社会問題を株式投資の側面から考えさせる。
- 

公開授業

1 日 時

2024（令6）年9月13日
（金） 午後2時 ～

2 会 場

東京学芸大学附属世田谷中学校

3 授業者

金城和秀教諭

4 主 催

東京都金融広報委員会

講演会のご案内

- 1 日時 2024（令6）年9月14日（土）
午後3時 ～
- 2 会場 新宿立牛込第一中学校
- 3 講師 埴 枝里子先生（都立農業高校）
- 4 演題 公民科公共での金融教育の実践
- 5 主催 社会科学習会
- 6 後援 東京都金融広報委員会

終

